

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	25221309	研究期間	平成25年度～平成29年度
研究課題名	中枢神経回路の障害と修復を制御する生体システムの統合的研究	研究代表者 (所属・職) (平成30年3月現在)	山下 俊英（大阪大学・大学院医学系研究科・教授）

【平成28年度 研究進捗評価結果】

評価		評価基準
○	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、中枢神経回路の障害、その後の修復過程を、生体システムの機能ネットワークの観点から解析し、生体システムの時空間的ダイナミクスによる一連の過程の制御機構を解明するものである。</p> <p>これまでに、中枢神経回路傷害と修復の制御に関わる生体システムの空間的・時間的解析を行い、免疫系や脈管系の細胞の役割を詳細に解析しており、当初の目的はほぼ達成されつつある。</p> <p>また、肝臓や腎臓などの多彩な臓器が神経回路の修復を制御するというエビデンスを得たことは当初目標を超える研究の進展である。今後は、新たな生体システムの概念の構築により、神経疾患の新たな研究分野を開拓し、神経回路の修復を促進する治療法の開発が大いに期待される。</p>		

【平成30年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待以上の成果があった。
A+	本研究は、研究進捗評価において期待以上の成果が見込まれていたが、その後の進捗状況も順調であり、成長因子やマイクロRNAの関与など、中枢神経回路障害における生体の動作原理を明らかにし、その成果は高インパクトな論文発表につながっていることから、期待以上の成果があったといえる。